

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4572100578		
法人名	有限会社 メープルウェルフェアサービス		
事業所名	グループホーム ひまわり 1階		
所在地	延岡市北川町川内名8307		
自己評価作成日	平成31年1月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	平成31年3月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所では、「あなたのゆつくりを笑顔で待ちます」「あなたの目を見て、丁寧に話を聞いて、丁寧に伝えます」を理念に、入居者様を中心としたケアができるように職員全員で取り組んでいます。自然の中にあるホームで、毎日を穏やかにのんびり楽しく生活を送っていただくために、一人ひとりと向き合い、ご家族様やその人の歴史、思いを大切に、入居者様の笑顔を励みとできるように心がけています。グループホームだからこそできる、柔軟なサービスを提供していきたいと考えています。また、地域に向けての認知症に関する啓発活動や出前講座、認知症の人と家族の会の活動にも積極的に取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は敷地内に隣接する介護保険施設との連携を図りながら、「あなたのゆつくりを笑顔で待ちます。あなたの目を見て、丁寧に話を聞いて、丁寧に伝えます」を事業所理念に掲げ、職員全員で理念を共有できるように、『業務マニュアル』を作成している。管理者は、外部での研修講師を担っており、年間計画に基づいてリーダーの育成や事業所内での研修を行い職員の資質向上に努めている。地域内においても認知症の人と家族の会の活動も取り組んでいる。運営者も職員との面談を行い、サービスの在り方、ケアに対する取り組みや法人の運営方針について職員の意見を聞いている。入居利用者も自然とのふれあいや家庭的な雰囲気の中で安心して生活されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングにて「認知症ケア」について職員間で話し合い理念を作成し、事務所に掲示している。毎日の朝礼時に唱和している。	職員会議や申し送り時に理念を唱和している。理念を具体的に言葉で表した業務マニュアルを作成し、日々のケアに活かす事ができている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム近隣はじゅうみんが少ないが、散歩の時などに挨拶をしたり、運営推進委員会や納涼祭等で交流を深めている。	事業所の代表者は自治会の区長をしている。散歩や納涼祭などの行事において地域の方と挨拶や交流がある。ホームが地域作りのきっかけとなれるよう取り組みに向けて準備中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座や公民館単位で行うサロンなどで出前講座を行うなどして、地域の人々に向けて認知症の理解を深めようとしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の行事、現在の状況、事故等を写真や文書を使用して皆さまの意見をいただき、サービスの質の向上に活かしている。	サービスの内容や評価、事故報告や事業所の取り組みを報告し、参加者から、相談先の紹介など助言が得られている。参加メンバー以外へ会議の内容を周知するまでには至っていない。	会議を欠席されたメンバーへの議事録等を配布する事により、更なるサービス向上に向けた取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に定期的に参加していただいている。また、困難ケースがあるときには相談をして協力関係を築いている。	管理者は地域ケア会議での事例検討や相談など、市の担当者との顔の見える関係性があり協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などについての全体研修を年に2回開催し、事業所全体で取り組んでいる。しかし、今年度は2回の離脱事故が発生し、現在は玄関の施錠を行っている。	研修を受けた職員がお互いに注意し合う様子があり現場に活かされた研修が実施できており、身体拘束にならないケアの実践につながっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を事業所でも行った。全事業所でも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要な方には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時は、ご利用者様やご家族様が納得できるように十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご利用者様やご家族様が気軽に相談しやすいように、来設したときには必ず声をかけて、何気ない会話でも大切にしている。	家族の来訪時は笑顔で対応し、職員は必ず声をかけるようにしている。入居者の孫や家族のペットを名前と呼ぶなど、アットホームな雰囲気がある。家族の要望や意見は、管理者、リーダーが聞きサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の管理者会議にて各事業所の意見などを話しあう機会を設けている。また、年に2回の全職員への個人面談を行っている。	フロアリーダーが職員の意見をその都度聞くようにしている。年2回の代表者との面談、月1回の管理者会議にて職員の意見を聞く機会を設けている。備品の交換や設備面の要望についても意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に職員全員と個人面談を行っており、働きやすい職場になるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員に対して研修を受ける機会の確保や資格取得の為に支援を取りいれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	延岡市内の他事業所との交流会に参加したり、情報交換をしたりとサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問時や初回面談時の際、十分に話を聞き、本人の気持ちに共感し気持ちを理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている小さな事でも耳を傾け、信頼関係が持てる関係作りに努めている。また、認知症の人の家族の気持ちを理解するための研修や指導なども行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の話を聞いて可能な限り自施設での対応をしていくよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意思の疎通がとれない方の支援が難しく自立支援につながっていない部分もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の担当職員を決めており、衣替えやイベントの出欠等を連絡することになっており、その時に本人の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に通っていた理美容室に行ったり、昔の友人に会いに行ったり、入居前の自宅に同行して帰省するなど、馴染みの場所や会いたい人に会えるように支援している。	土曜日を外出支援が行える時間として確保している。行きつけの理美容室への外出、他施設に入所している馴染みの友人への面会、自宅への同行など継続的な交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、テーブルやソファの配置などを工夫している。日中はなるべく寄り添うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じてご家族に連絡をとったり、相談があった時には対応をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方を十分に把握するよう努めている。入所時のときにはご家族に詳しく聴いたり、本人に聞くなどして検討している。	本人だけではなく、家族からも思いや暮らし方を日々のかかわりの中で聞き、把握するように努めている。職員間でも独自のアセスメントシートを使い情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族に詳しく聞いたり、本人様とゆっくり話をする時間を作るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の基礎疾患や心身の状態を十分に把握し看護師とも情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様、必要な時は主治医と話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画をたてている。	本人がどのような生活を送りたいかに焦点を当て、職員会議での情報共有を行い、家族や医師など関係者の意見も聞き、介護計画に反映させている。モニタリングも定期的実施しており、見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動、又いつもと違う気づきがある時は個人記録に残し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスだけに捉われない、行きつけの美容室を利用したり柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会と時などに問題を相談したり、地域包括支援センターや警察、行政などを連携を図り安全が保ているようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望を優先している。また、かかりつけ医と連携して適切な医療がうけられるよう支援している。必要な場合は遠方であっても希望の病院に行けるように支援している。	本人、家族の要望に応じて、かかりつけ医に加え、病状に応じた専門医への受診も行っている。基本的には家族同行であるが、困難な場合は事業所で受診の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤兼務の看護師により毎日入居者の様子を観察しており、必要に応じて処理や相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様やご家族様が安心して入院生活が送れるように情報提供をしたり、カンファレンスを開いたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際に、十分な説明と同意をしていただき、書面化するようにしている。DNARの意思確認も行っており、スタッフに周知しており対応できるようにしている。	契約時に重度化の指針と終末期支援に関する覚書を取り交わしている。終末期においては意思確認を行っている。重度化した場合は設備面も含めて同法人の特定施設へ移られることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて事業所全体で救急法の研修を行い、AEDの使用法などを身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大きな河が近くにあることもあり、水害や地震・火災に備えての避難訓練は年2回開催している。	事業所の代表者は地域内の消防団員でもあり、地域内の協力体制が築けている。緊急連絡網の整備や水害に関するハザードマップも事務所に掲示しており、火災や水害を想定した避難訓練を年2回実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等で入居者の尊重やプライバシーの確保の話を行っているが、まだまだ十分ではない。これからの研修やスタッフのメンタルケアが必要。	排泄時のプライバシーへの対応や声掛けの声の大きさなど研修や業務マニュアルを通じて確認している。入浴介助は同性介助を行い、職員間で連携し、介護者の配置について配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる方については更衣の服や外食時の好みのものを選んだりする機会をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを支援していきたいと思っているが、職員側の都合を優先する時もあり、入居者の希望を叶えられていない現状もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服や起床時の身だしなみを整えることができるよう、できるかぎり支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段のコミュニケーションの中で食べたいものを聞き、一緒に作ったりする日を増やしている。毎食後の茶碗洗いは毎日一緒に行っている。楽しく食事ができるように座る席や場所を工夫している。	法人の管理栄養士の献立を基に事業所内で食事内容を工夫している入居者は野菜の切り込みや茶碗洗いなど一緒に行っている。食事時の座席や職員の配置も工夫しており、食事を楽しめる支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎回記録するようしており、食事以外に2回の水分補給を行っている。摂取量が少ない時には医師に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の状態に応じて口腔ケアを行っているが十分に行えていない方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時はリハビリパンツだった方も声かけによりトイレに行けるよう支援している。	入居者の排泄のタイミングを職員間で共有しており、トイレ誘導にて排泄を支援している。夜間においても性別に合わせたオムツ類の使用や、枚数について検討を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師に相談し、水分補給や運動量を増やしたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	これまでは業務の都合であるが、毎日午後入浴となっていたが、現在故障の為、午前中に2階の浴室を使って入浴を行っている。無理強いする事はしないよう考慮しながら対応している。	土曜日を外出支援に優先しており、土曜日以外で希望を聞きながら3日に1度の頻度で入浴している。同性での介助も柔軟に対応できるよう職員同士が連携しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に応じて休憩したり安心して気持ちよく眠れるような支援ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	指定の位置に薬の説明書を置いている。薬の変更があった時は「受診結果報告」にてスタッフに周知し、かかりつけ医師に変化があった時は報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべく全員の好みを把握し、楽しめる支援につなげていきたい。個々の方にできる支援、意思疎通が困難な方については季節を感じるような交流をしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって戸外にでかけるよう支援に努めている。家族との旅行のために「パーマをかけたい」とのことで美容室に行ったりしている。	敷地内の手すりを使って歩くことや近隣の道端の草取りをしながらの日常的な散歩など行っている。美容室や受診時も個別に外食やお弁当を買って公園で食べたりするなどの機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、1階の入居者の中で1名のみご家族との話し合いの元で少額にお金を所持している方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分の携帯電話を所持している方が2名いる。また、いつでも事務所から電話などできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい空間づくりを意識しているが、職員の声や足音などまだまだ十分な気配りはできていない部分もある。	廊下には入居者と作成した季節感が感じられる壁画の展示がしてある。テラスからは季節の花木や自然の景観を眺める事ができ、ホール内は個人に合わせた椅子の配置があり居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの居場所も考慮してはいるが、ホールでも落ち着かない方は時には事務所でスタッフと話をしたり散歩に行ったりする時間を大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご家族には使い慣れた物を持参していただきたいと話してはいるが、殺風景な居室の方も多。	室内には家族やペットとの思い出の写真や記念の品物など飾られている。仏壇の持ち込みもあり自宅と変わらない居心地良さを意識している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前に名前を表示したり、理解の困難な方は案内している。また、夜間センサーを使用しトイレに案内したり見守りを行っている。		